

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）ソウカダイガク	フリガナ）ケイザイガクブ	フリガナ）チカサダゼミナール
創価大学	経済学部	近貞ゼミナール

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ）チームアグリ	フリガナ）マチダリコ	6	無
チームアグリ	町田紀子		

研究テーマ（発表タイトル）

食品ロスから新たな価値を ～リサイクルでお花と笑顔を咲かせようプロジェクト～

※必ず＜企画シート作成上の注意＞を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

近年、食品ロスの問題は世界的にも大きな課題として取り上げられている。日本においては、捨てられるほど食料が溢れている一方で、日々満足な食事を得ることが難しい人も存在する。私たちは食品ロスの中でも、特に発生量が多く、また、効果的な対策が少ない家庭系の食品ロスに着目した。その食品ロスは対策の網目をくぐり、最終的に生ごみとして廃棄されてしまう現状にある。

そこで私たちは本研究を通し、家庭から出る食品ロスから新しい価値を生み出し、それをを用いて日本に存在する食料格差を埋めることを目的としている。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

平成 25 年度の農林水産省の調査によると、事業系の食品廃棄物の量は 1927 万トンで、そのうち食品ロス量は 330 万トンである。その一方、家庭系の食品廃棄物量は 870 万トンで、そのうち食品ロス量は 302 万トンとなっている。この現状をうけ、事業系では、食品ロス削減への対策として、農林水産省などが食品業界の商慣習である「3 分の 1 ルール」を見直し、納品期限を延ばす取り組みを行った。その結果、前年と比較し 220 万トンの削減に成功している。しかし、家庭に対する対策はフードバンクという取り組みがあるが、他には効果的なものがあまりなく、大幅な削減には至っていない。また食料廃棄物のリサイクル量は事業系では 1336 万トンであるのに対し、家庭系では 57 万トンと、たった数パーセントしかリサイクルが進んでいないという現状がある。

3. 研究テーマの課題

現状分析で述べたように、家庭の食料廃棄物は削減に加え、リサイクルさえもあまり進んでいないことが課題である。

家庭における食品ロス削減に有効であるとされるフードバンクは、企業だけにとどまらず家庭からも食品を寄付できる仕組みになっているが、実際は様々な規定があり、寄付ができず、廃棄されていく食品が多くある。

このように、今ある取り組みでは、家庭の食品廃棄物のそのほとんどは有効に活用されず、最終的に廃棄処分となっていく現状にある。この廃棄処分される食品廃棄物をリサイクルによって有効活用する点においては、上記のとおり事業系では活発になされ

ている。一方で、家庭系の食品廃棄物に関しては、リサイクルですらほとんど手が付けられていない状態にある。この側面に着目し、本研究では、家庭系食品廃棄物のリサイクル率の低迷を問題意識としてとらえる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

家庭から排出された食品ロスを、コンポスト（生ごみ処理機）を通して肥料化する。できた肥料で花を育て販売し、得た収益は第一段階としてコンポスト事業を継続させるための事業費として活用する。その後、コンポストの利用者数が増え、収益の拡大が実現すれば、得た収益金は NPO 団体などに寄付し食料格差を埋めるために使用する。

この取り組みにより、生ごみ・食品ロスを有効活用することが可能となり、日本に存在する格差の解消に貢献することができる。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

- ・家庭系食品ロスの現状
- ・コンポスト（生ごみ処理機）の実態調査
- ・生ごみリサイクル率の現状
- ・大学生を対象にしたアンケートによる食品ロスとボランティアに関する意識調査
- ・東京都八王子市役所との連携

6. 結果や今後の取り組み

八王子市で行われているコンポスト講習会で、プランの広報を行い、大学生のボランティアを募集し、プランの実行を行っていく。まずは、八王子市でプランを成功させモデルを作り、全国やそれぞれの地域に見合ったフラワープロジェクトの立案を行い、全国的な取り組みにしていきたいと考えている。

7. 参考文献

- ・農林水産省 HP http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/（2016 年 9 月 28 日）
- ・セカンドハーベストジャパン HP <http://2hj.org/problem/foodbank/>（2016 年 9 月 28 日）

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

特にありません。

<企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となります。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までをお渡しします。
- ※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限り、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。